

PRO-LIFE

中絶に反対する運動

1999年5月 No.103

胎児を守る運動

マザー・テレサの遺したものの

人は彼女を「母」と呼んだ。この世で一番愛に満ちた美しいその名は、カルカッタ出身のマザー・テレサに与えられたものだった。瀕死の人、貧しい人、ハンセン病患者、赤子、見捨てられた人、孤独な人、忘れられた人：あらゆる人の中にキリストの存在を見出した彼女は、そのひとりひとりにとっての「母」だった。

そして同時に、その他の人間にとっても！私たちは皆、彼女を「母」と呼んだ。赤子はベビーベッドの中で、ハンセン病患者は病院のベッドで、そして悩み苦しむ多くの人々もみな「母」に助けを乞



い、マザー・テレサはその叫びに愛と祈りと、彼女自身の暖かい手を差し伸べて応えた。

彼女が私達に遺してくれた偉業をひとりでどう表現すればいいのだろう！無私の姿勢を真似ただけでなく、プロライフ活動や家族のあり方へも提言し続けた人として、永遠に語り継がれるだろう。彼女の講演のうち最も有名なのが一九九四年のある大会でのもので、その一部を紹介したい。

一、家庭：「家族が一緒にいるために、どんなに辛くても人に与え続けますか、それとも自分のやりたい事を優先させますか？愛は家庭で生まれ、その人の人間性も家庭を通じて育まれることを忘れないで下さい」

二、避妊：「避妊という形で生命を育む力を押さえつけ、夫も妻も利己的になっていきます。自分の事ばかり考え、本来男女が愛の結果を育む喜びを抹殺しているのです。避妊によって愛の形が崩れたら最後、中絶もあたり前の事になってしまうでしょう」

三、中絶：「今日、社会の平和を乱す最大の悪者は、中絶です。なぜなら子ども相手の戦争であり、罪

なき子どもに直接手を下し、殺す行為であり、母親自身による殺人だからです。母親が自分自身の子どもを殺してしまえる御時世に、他の人々に殺し合いをやめなさいと言っても説得力があるでしょうか？中絶によって母親は、自分の問題を解決するために、子どもに愛ではなく死を与えることを選ぶのです。父親は、自分が関わった子どもであるにもかかわらず、「あなたは何も心配しなくていい」と言われるのです。ひとつの中絶はさらなる中絶につながります。愛の大切さよりも、欲しいものは力づくで手に入れると人々に教えるのが中絶を認める国のやり方です。もうおわかりでしょう、愛と平和を乱す最大の悪者は中絶だということをお腹の中の赤ちゃんは神の手によって造られ、現世においてだけでなく、永遠に愛し愛されるために、神によって計画されているのです」。

マザー・テレサはためらうことなく小さな赤ん坊のために熱く語り、生命の尊厳を訴え、死の文化に反旗をかざした。相手が大統領や政治家や学者だろうが、若者でも老人でも、カトリック信者にも信

者以外にも、全く同じ言葉で神の真実を語った。これから生まれる子どもへの愛情、その両親への思いやりが高じて、彼女はこうも言った。「もしその赤ちゃんがいないのなら、私に下さい。かわりに私が愛しましょう」。

彼女からもらった一通の手紙に、小さなカードが入っていたことがあり、そこには「神は小さいもの、素直なもの、静かなものを愛され、素朴さや、小ささや、貧しさ、そして、救いのないように見える人々を使って、御自身がこの世を愛していると世界に示される」と書かれていた。

自分が関わるすべての人の中に神の顔が浮かぶとよく言っていたマザー・テレサが、今、神のすぐ近くにいる。何と喜ばしいことだろう！

ポール・マークス



ある母親の言い分

人類の生命支持や貞潔の精神を広めるために国中を訪ねている時に会おう女性達の不安や後悔や怒りの気持ちを感じたり、体験したりしたことがありますか？私は多くの場合十代の若者を相手に公演をしているのですが、若者相手の場合、彼らは真実を受け入れ易い状態にあるのに対して、成人が相手の場合、話を聞いている人の中には疑いや怒り、そして悲しみの表情を浮かべている女性が必ずいるものです。

私の話が終わるとそばに寄ってきて、「生殖における選択権が与えられない限り、女性に自由など訪れない。」「教会でさえ、高い地位には男性を持ってきて、女性を差別している。」「男性に子どもを産むことはできないのだから、中絶についてとやかく言うべきではない。」「貞潔はこの世の中での真の選択ではありえない。」「などと言う人がいる。

誤解してはいけないのだが、確かに適切な扱いを受けていない女性の中には、そのような不正は是正を求めて訴え続けていかねばならない。しかし、自己を把握する能力や自尊心が低下しているために誤ったところに治癒

や確信を求めている女性がたぐざんいることも事実である。その中には自分の直面する問題を「解決する」ために中絶に走る人もいるのだが、中絶が問題を何も解決することでないことは周知の事実である。なぜなら中絶が迎える結末は、例外なく赤ん坊の死体とひどく傷つけられた母親の体であるからだ。また、「女性のための、女性による、女性の統治」だけを目標とした政治的影響力を求める女性達も存在する。

しかし、女性にはかつて自分の家族や地域社会で特別な力というものが備わってはいなかっただろうか。しかも女性は社会で常に道徳性を維持していたのではありませんか。社会での道徳性の今日状況は、下降気味であることは十分おわかりだろう。なぜならあまりにも多くの女性が自分自身のことだけにとらわれているからである。これは子どもの安全や夫の健康と幸福のために自らを犠牲にした先祖とはあまりにもかけ離れた特質だ。私達、後継者のために参政権を勝ち取ってくれた初期の犠牲者達に、私達は借りがあるのであり、法のもとに女性が平等に扱われるよう、努力を続けなけ

ればならない。しかし同時に私達には無私無欲で犠牲を惜しまない女性が必要である。なぜならこの国で家族の絆を強固なものにし、道徳観を取り戻すためにはこれらの性質が不可欠であるためである。

最後に、女性が求めているのが確約であるのなら、彼女達は聖書を読みさえすればいつでも神が繰り返し繰り返し確約してくださるはずである。結局のところ、イエス・キリストがこの世に現われたのは、一人の女性が神に対して「はい」と答えたからなのである。マリアは、謙虚さと誠実さを力とした人であった。イエスには女性の親友が大勢いた。彼はマリアやマルタを頻りに訪ね、頼まれた時には、二人の弟ラザロを生き返らせることまでした。他の者達が姦通罪を犯した女性に石を投げつけようとした際にも、彼は彼女をお許しになったのであった。また、イエスは十字架に向かう時も、泣いているエルサレムの女性に慰めの声をかけるために一瞬立ち止まっただけで、あとは静かに前進を続けたし、血に染まった神の顔を拭くためにきれいを渡そうと、発狂した群衆の中を走って

いったのも勇気ある女性であった。シモンは十字架を運ばされたが、ペロニカは進んで彼に救いの手を差し伸べた。そして復活したイエス・キリストはまず最初にだれのところに姿を見せただろうか。女性であった！彼はマグダラのマリア、ヨハンナ、そしてヤコブの母親マリアの前に現われ、彼女達はその事実を信じたのであった！

もし以上の素晴らしい話でさえも女性に確信の念を抱かせないとなれば、ほかにそれを可能にするものなどないだろう！一番の問題は、多くの怒りや後悔の念に満ちた女性達が神に助けを求めているという事実にある。代わりに彼女達は他の怒り狂った女性達に頼り、その結果怒りが増幅する事態を招く。ある歌にもあるように、「この世が必要としているのは愛、甘い愛なのである。」そして自分に対する愛を他人にも与えることのできる女性が必要とされている。忘れないでおこう。私達は平等である、でも同じではない、ということを！この違いが世界中の違いを作り出すことができるのである！

マリ・ケリー

胎動

胎動というのは、妊娠してからだいたい16週から17週間に、お母さんがお腹の中の赤ちゃんの動きを最初に感じる時の事をいう。それは、ずっとその前からそこに居た赤ちゃん自身がどうこうという事ではない。赤ちゃんは、その存在の最初の段階ではまだ動かないが、そこに居る。その事こそが大切なのである。その後、赤ちゃんは動くようになるが、まだお母さんはそれを感じる事ができない。だが大切なのは、赤ちゃんがそこに居るといふ事である。リリー博士は次のように述べている。

歴史を振り替えてみると、「胎動」といって、胎児が魂を持って独立した人間に初めてなった瞬間を意味する言葉であった。しかし、現在では、いくら赤ちゃんが動きを感じさせているには小さ過ぎても、母親が赤ちゃんを感じるよりずっと前から、胎児は活動的で独立した生命であるという事はわかっていく。胎動とは母親の感覚であって、母親の脂肪や胎盤の位置や赤ちゃんの大きさや動きの強さによるのである。

プロ・ライフ

私を産んでくれたお母さんへ

世間で取り沙汰されている中絶、養子縁組み、女性の出産に関する権利についての論争を考えているうちにこの手紙を書こうと思いつきました。この手紙をお受け取りになつて、さぞかし驚き、動揺なさっていることでしょうか。傷ついているかも知れません。そしてきっと、一体どうしてとお思ひになつていらっしゃるね。

何年前か、あなたは小さな女の子を産みました。しかし、その女の子がどんな人間に育つか知ることなく、その柔らかい肌に触れることも抱くこともできなくなる運命でした。自分のおなかをしょつちゅうけていた赤ん坊。おなかの中でずっと育て続けてきたその赤ん坊と別れる時は、どんなにか辛かったことでしょうか。

あなたは私を育てることが出来ず、私を養子に出しました。そうして私はすばらしい家族にめぐり会いました。私には、やはり養子としてひきとられた兄弟がいます。女の子が一人と、男の子が二人います。それに、これ以上すてきな両親はいません。私達は、真の意味での家族であり、仲の良い家族だけがわけあうことのできる深い愛情で結ばれています。

両親は、私が物心ついた頃から私

の養子縁組について話して聞かせ、養子にもらわれることがどんなにすばらしいことかを語ってくれました。二人とも、私を養子に出したあなたのことを批判するような言葉を言ったことは一度もありません。なぜなら、両親も私と同じようにあなたの決断に感謝しているからです。その決断がどんなに難しい選択であつたか、またあなたの選択には我がままな気持ちも少しもなかったであろうことが私達にはわかつています。

自分の胎内の子どもを中絶することさえ、女性自身の権利だと主張している人達があります。私は、私のような幸運に恵まれなかった赤ん坊のことを考えると、涙を流さずにはいられません。あなたにとつては養子さえ辛い選択でもあつたのでしょうか、私を産もうと決意し、いっしょに過ごすことができないとわかつていながら命を私に与えてくれました。このように決意して下さつて感謝しています。

自分の選択が間違つていたので等等とお考えにならないで欲しいのです。あなたの選択は正しかったのです。命は、ゴミのように捨て去られるものではなく、貴いものなのです。社会に積極的に貢献して、常に自分のベストを果たすことが、私

がこの世に生まれてきた意味であると思うのです。あなたの選択は間違つていませんでした。

私が自分の出生について考えたり、知りたいと思つていないこともあなたにお伝えしたいのです。あなたのプライバシーを尊重したいと思つていますし、今の家族が自分の家族だと思つています。自分が誰であるか、どうしてここにいるか、ちゃんとわかつているつもりです。

あなたが私から命を取り上げた愛しないで与えて下さつたこと、私を愛して下さい、いい家庭に私を託して下さい、私を知っているだけで私は十分満足です。あなたを見つけて出したつもりはあります。あなたはいつでも私の心にいるし、それだけで十分なのです。あなたが誰であろうと、どこにいようと、感謝の気持ちに変わりはありません。もし、私の気持ちを一文で表すとしたら、こんな感じですか。私を産んでくれ、養子に出してくれて、ありがとう。

あなたの娘より

生命の価値についての聖書の考え

私達クリスチャンにとって、中絶問題にはいくつかの側面があります。それは、赤ちゃん、その母親、そして社会の三つです。

「中絶」という言葉が聖書に出てこないからといって、神がこのことに対して沈黙しておられるというのではありません。むしろ深く、幅広く内容を吟味して、中絶に関する神の意思を認識しなければなりません。まず最初の疑問として、そもそも神が生まれる前の子どもを人間として認めていらつしやるのか、ということがあります。答えが「ノー」なら、胎児を不要なお荷物として処分することもできるでしょう。しかし答えが「イエス」なら、神がクリスチャンに求めておられる隣人への愛をもつて胎児に接しなければなりません。

(1) 神はダビデを生まれる前から人として知っておられた
「あなたは私の腎をつくり、母の胎内に織りこまれた。…あなたは私の魂を知りつくされる。私の骨はあなたに隠されてはいない。私がひそかにつくられ、地の深みでぬいとりされたとき。」(詩篇第一三九章13、15節)

(2) 子宮の中の存在物は赤ん坊である
「エリザベトがそのあいさつを聞いたとき、胎内の子はおどり、彼女は聖霊に満たされて声高く言った。『あなたはその胎内の中で祝福された方で、あなたの胎内に実るものも祝福されています。主の御母が私を訪問してくださつたのですか。これほどの方が

どうして私に恵まれたのでしょうか。何としたことでしょうか、あなたのあいさつのみ声が私の耳に入ると、私の子は胎内で喜びおどりました。』(ルカによる福音書第一章41、44節)

(3) 洗礼者ヨハネについての記述
「その子は母の胎内から聖霊に満たされ」(ルカによる福音書第一章15節)

(4) ガラツィア人への手紙におけるパウロの記述
「けれども、母の胎内から私を選び分け、その恩寵によつて私を召されたお方。」(ガラツィア人への手紙第一章15節)

(5) 下記の一節において、胎児は人間であり、幼児虐待に對しての神のお考えが明示されている
「神のみ心がいとわれる七つのことがある。…無美の人の血を流す手、」(格言の書第六章17節)
「死地にひかれる人を救いだし、死刑せられようとする人を助け出せ。『私は知らなかった』とあなたは言うかもしれないが、心を見抜く方には分かること知らないのか。」(格言の書第二四章11、12節)

私達は、聖書の教えに留意しなければなりません。なぜなら、自分の知つてゐること、それについての行動を、神に説明できるようにしなければならぬからです。

11の子を求め私の祈り

ドアが勢いよく開き、緊急室へ運び込まれると、眩しい光で目が眩みました。ストレッチャーの上から、私を囲んでいた6人も知らない顔を見上げました。彼等は秩序立てて効率的に、私をいるんなモニターに接続していました。私は静かに、誰かが私の目を覗き込んで、勇気づける様に微笑んでくれないかと、切に願っていました。誰もそうしてくれませんでした。

感情の無感覚さが覆ってくる頃に、涙が私の耳を伝わり、首を濡らしていました。私は陣痛を迎えていました。妊娠22週目だというのに、ひどい出血で。

覚えている限り、私はいつでも子どもを欲しがっていました。何年間も子どもが出来ず、自分は不妊症だとあきらめていました。だから私が32歳で妊娠したと知った時、夫のジェリーと私は大喜びし、私の中の子どもが神からの奇蹟だと思ったのです。私の妊娠生活は牧歌的でした。私はエネルギーで滅多に分も悪くならず、仕事も続けて

いました。20週目の超音波検査で私達の赤ちゃんが確実に男の子だとわかったので、すぐにブライアンという名前を付けました。妊娠していた時程、幸せで平和を感じた事はありません。私のお腹の中には息子がいて、すべて順調だったのです。

12月13日の月曜日は、いつもの月曜日と同じ様に始まりました。私は目覚まし時計で起き、仕事に行く準備をしました。そして起きてから約一時間後に、私は激しく出血したのです。恐怖で身体が動かなくなりましたが、どうにかジェリーに病院に運び込まれました。超音波検査により、私の子宮けい部が2.5センチに広がり、羊膜(赤ちゃんを囲む羊水の入った袋)が子宮けい部からふくれ出ているとわかりました。私はただちにベットに寝かされました。妊娠してからまだ22週と5日目だったので、医師は陣痛の進行を止める為、全力を尽くそうとしました。

病院での二日目の夜中のある時点で、私はこの先忘れられない

い感覚におそわれました。それまで私は何時間か、息子の命を助けてくれたらあれをします、これをします、と神と取り引きしようとしていました。やがて私は宇宙の神と商談を取りまとめる事の意味のなさに気付いたのです！私が神に与えられる物は、誠意以外何もありません。その時点で、私は自分の希望でなく神の希望がかなえられる事を認め、又受け入れたのです。

三日目には私の子宮けい部は6センチに広がりました。ブライアンの足が羊膜を押ししている状態でした。この時は絶望的でした。陣痛は止められず、ブライアンは産まれてから生きていくには未熟すぎたのです。

ジェリーと私は主治医と別の病院について話合いました。それは30マイル程離れた所にある、高度な最新産婦人科の集中治療室を持つ病院で、これまで何度か主治医もそちらの医師と協議した事があるのです。その病院の専門家は私達に一抹の望みも与えず、私をその病院へ送る

事に反対だ、とこちらの主治医に言ってきました。それでも主治医は、向こうの病院でも出来る事はこちらとそう変わりはないよ、と忠告した上で、最終決定を私に任せました。主治医は、私が後戻りの出来ない強い陣痛に入っているようだから、ただちに決断を下さないといけないと言いました。そして私達だけで考えるよう、部屋を出て行きました。

この時、私はどうでもよくなっていました。ブライアンが助かる望みを持っていなかったし、これから経験するであろう悲しみをくぐり抜けるのを助けてくれる友達や家族と、少なくとも近くにいられるこの地元の病院に残る方を選びたかったです。でも私はこの決定を夫自身にしてみよう事にしました。ジェリーが私の方を向いたので、「あなたが私にして欲しい様に私はするわ。」とやさしく言いました。彼は泣き崩れ、ベットの寄りかかり、私をしっかりと抱きしめました。

「僕は向こうの病院へ行きたい。」と夫はなんとか言いました。私も泣き始め、しっかりと抱き合いながら、お互いと、自分達の神への誠意から勇氣と強さを得ようと思いました。そして少ししてから主治医を部屋に呼んだのです。もう一つの病院に着くと、私は

たちまち大勢の看護婦に囲まれました。彼女等は私の体温脈、呼吸、血圧を計り、ベットに入れ、いくつもの違ったモニターに私をつなぎました。部屋に入ってきた、重傷患者を担当している産科医が最初に言った言葉は、「あなたが主治医の指示に反してここへ来たのは知っていますよ。」でした。私の心は沈みました。彼の声には何の希望も励ましもありませんでした。彼は私を検査し、子宮が8センチ開いている事がわかりました。先生は私の産道の中にブライアンの小さな足を実際感じる事が出来たのです。先生は羊膜が無傷のままであるのに驚き、ブライアンの誕生をなるべく遅らせるよう、出来るだけの事をすると言いました。超音波の検査では、ブライアンの体重は生き延びるのには小さ過ぎたのです。

少しして担当の最新産婦人科医が私達の所に来て、とても詳しくブライアンの生きる可能性について話し合いました。彼は厳しい程正直で、私達に間違った希望を与えず、ブライアンの非常な未熟さは沢山の難しい問題を産み出すと言いました。ブライアンの肺は助けが必要である。何週間も換気装置を使う事

になる。知能遅れ、脳性小児麻痺、盲目、そして他の永久的な障害を持つ、非常に高い危険性がある。ブライアンの生き残るチャンスは五分五分で、彼が正常に産まれる可能性はもっと少ないのでした。

それから6日経ちました。私の羊膜は奇蹟的にもそのまま、子宮が開ききっても、どんどん強くなる通常の陣痛が起きてても、ブライアンを留めていました。12月22日に、陣痛が始まってから9日目に、私はブライアンが「救助可能」と考えられる、と知らされました。彼が六五九gのハードルを越えたといつのです。陣痛が起きることにブライアンが少しずつ疲労を表わし始めていると先生は言い、もうこれ以上長引かせられないと言いました。

12月22日の夜9時57分に、ブライアンは帝王切開で産まれました。彼の体重は1パウンド12オンスで、身長は12インチでした。ちょうど妊娠24週目で、16週間未熟でした。彼はただちに最新産婦人科集中治療室に運び込まれました。あつという間に連れて行ってしまったので、私は顔を見る事も出来ませんでした。夫は私より先に赤ちゃんの顔を見ました。

中絶した母親の奏でる子守歌

イエスさま教えてください、
私の赤ちゃんは泣きますか。
彼に子守歌を歌ってくれますか。
涙が枕を濡らします、
失くしてしまった我が子を思って。

私のお腹にあなたは彼を宿された。
でも、今、彼の住みかはお墓。
涙はすぐに乾くと思ってた。
だって、人は言うのですもの。
「それは赤ん坊じゃなく、
ただの組織だ」と

いくら他の赤ちゃんを授けてくれても、
私が宿したあの子の代わりにはなりません。
夜の静けさの中に、泣き声が聞こえる、
いつも忘れようとしているのに。
罪悪感と恥ずかしさに苛まれます、
何と恐ろしい罪に加担したことかと。

あなたはゴルゴダの丘で
罪人の身代わりとなられた。
いつか私はあの子と逢うでしょう。
あなたがおいでになる日が近いことを願い、
私は彼を抱いて歌います。

私の可愛い赤ちゃんを
決して泣かせはしません、
私があの子に子守歌を
歌ってあげるから。

匿名希望

私が始めてブライアンを見た

時、ショックを受けました。彼は小さくしわくちやで、赤い顔の老人の様でした。まぶたはくっついていて、目に閉じられ、顔の半分は喚起装置を固定する為のテープで覆われていたのです。ふとももは私の小指程の太さしかありませんでした。彼は怒った様に足を蹴って、腕を振り、顔には恐ろしいしかめっ面のしわを寄せていました。最新産婦人科医が私達のそばにきました。「この子は全くのがんばり屋だね。」と言いました。この時点で私は、もしかしてすべてがうまく行くかもしれない、と感じました。

ブライアンは17週間病院にいて、彼の生きたいという意思の強さはみんなを驚かせました。

先生や看護婦さん達はこの子を「奇蹟の坊や」と呼びました。悪い事はいくらでも起こりえたのに、起こらなかったのです。信じ難いことに、ブライアンにはこんなにも未熟で産まれた事の悪い影響がこれっぽっちもないのです。「神様はこの子の未来の計画をお持ちに違いない！」と最新産婦人科医の一人が言いました。ブライアンは今健康で幸せで、2歳半で、エネルギーに溢れています。彼を見るだけでは、この子が4ヶ月未熟で産まれ、まとも生きられる可能性は20%以下

下しかない、と言われていたとは、誰にもわからないでしょう。彼は正常で、驚く程ありきたりな2歳児なのです。

ブライアンのベットルームには言葉が書いてある絵がかかっています。私はそれを、自分が妊娠したとわかった数日後からかけていたのです。それにはこう書いてあります：

「私はこの子について祈りました、主は私の願いを聞き届けてくださいました。それで私もこの子の一生を主にゆだねます。」
(サムエルの書 上 1章27、28節)

テレサ・グラハム

ママ、ありがとう！

私は16歳。プロ・ライフ運動に積極的に参加している。中絶は殺人だと思ふ。毎晩のように殺人のニュースを見ながら、殺人が合法化されている病院で何の罪もない命が奪われて行く事に嫌気を感じている。

私は毎日自分がこの世に生を与えてもらった事に感謝している。なぜならママが妊娠に気づいた時、パパはママを捨て、ママは自分の親にぶたれたりしていたのだ。ママはだれにも頼れず、行く当てもなかった。それでも何とか努力して、私を産んでくれた。

友達も多くも私と同じようにプロ・ライフ運動の大切さを感じ、何とかしたいと思っている。殺人をやめさせるために何か私達に出来る事はないのだろうか？

赤ちゃんの

ジエシカへ

数ヶ月前、あなたのお母さんとあなたのことを初めて話した時は、あなたをこの腕に抱く日が来るなんて思ってもいませんでした。その時あなたのママとパパは、あなたの病気を知ったばかりでした。パパとママはあなたを思っ、それはうるたえていました。パパもママもあなたが欲しいのに、お医者さん全員が、あなたは「どうせ死ぬから」中絶する方がよいと言ったのです。私達に電話してきた時のあなたのママには、そうしたくなくても残された道は中絶しかないと思えたのです。

私はあなたのママに、あなたが神にとつてどんなに大切なものか話しました。神があなたを創られ、神の目から見ればあなたはとも存在価値があるという事を。それはパパやママも同じように感じていた事です。パパとママはただ、あなたに命を与え続けてもよい、と他の誰かに言ってもらいたかったのです。あなたのママは、あなたが神からの贈り物だと信じていると言いました。だから、例えば周りからの二人へのプレッシャーで困難を感じても、神を信じ、あなたを産もうと心に決めたのです。

パパとママがあなたの誕生を待つ間、二人と共に歩めたのは名誉なことでした。二人はとも勇氣があつたから、あなたは両親を誇りに思うべきです！二人はあなたをとて愛していたから、他の人が二人の心を変えさせようとするとする言葉にも、耳を傾けなかつたのです。例えば、あなたと過ごせる時間は短いと知っていても、二人はあなたに会って腕に抱くのを楽しみにしていたのです。

そして待つのが終わる時が来ました。あなたは七

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

[201] 生か死..... + 郵送料
 [202] 第二の処女生..... + 郵送料
 [203] デート..... + 郵送料
 [204] どうするの?..... + 郵送料
 [205] "NO"という技術..... + 郵送料
 [206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
 [207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
 [208] していましたが..... + 郵送料
 [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
 [210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
 [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
 [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

[401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
 [403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta)....7000 + 郵送料
 [404] いのちのちーおくりもの.....(VHS)....13000 + 郵送料
 [407] 命美しいもの=one&only.....(VHS)....20000 + 郵送料
 [409] 聞こえる?天使の鼓動.....(VHS)....6000 + 郵送料
 [500] (本)生命問題に関する...(カトリックの教え)...2987 + 郵送料
 [501] (本)自然な家族計画...(ビリングス・メソッド)...1000 + 郵送料
 [503] (本)プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
 [504] (本)小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
 [505] (本)いのちをみつめて.....500 + 郵送料
 [506] (本)命あるすべてのものに(マザー・テレサ)....650 + 郵送料
 [507] (本)私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
 [508] (本)いのちの福音.....1500 + 郵送料
 [509] (本)小さな生命のために.....1300 + 郵送料
 [511] (本)赤ちゃん:最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
 [512]本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
 [513]本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
 [514]本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
 [515] (本)経口避妊薬:ピル.....100 + 郵送料

月十二日火曜日に生まれたのです。お医者さんはあなたがたった一時間しか生きられないと言いましたが、ここでも彼等は間違っています。あなたはその後、ほぼ二日間生きたのです。その短い二日間を、あなたはパパとママと過ごしました。二人はあなたを抱きました。あなたを愛しました。二人はあなたの顔を心に刻み込みました。

そして七月十四日、あなたがイエス様のもとへ帰っていき、二人はさようならを言ったのです。私達の心は沈みましたが、これからずっとあなたは愛され続けるし、あなたが今健康で幸せであると分かっています。あなたの苦しみをすべて取り除かれ、あなたの素晴らしさを見る事ができなかった(又は見ようとしなかった)人達との間のヴェールはなくなり、天使達が、あなたの存在、神の創造物

である事の素晴らしさを祝福しています。

ジエシカ、ある人達はあなたの命には意味がなかったと言いました。あなたが生まれる前に「イエス様のもとに返す」方が良かったのではないかと、言う人もいます。でもその人達は間違っています。あなたの命には意味があつたのです。あなたは、他の誰にも代わる事の出来ないやり方で、人の心に触れました。あなたのお陰でお医者さんも看護婦さんも、今まで持っていた命の価値や、誰の命に価値があるかを考え直させられたのです。ジエシカ、あなたは私の命にも響きました。そして私はあなたを抱いて愛した記憶を心の中にずっと持ち続けるでしょう。さあ、イエス様の腕の中でおやすみなさい。

シャロン

511] **赤ちゃん:最初の十ヶ月の旅**

515] **経口避妊薬:ピル**

注文: 1 - - - - - 5 1部 = ¥ 100
 6 - - - - - 20 1部 = ¥ 75
フルカラー 21 - - - - 999 1部 = ¥ 50
 1000 - - 以上 1部 = ¥ 35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

パンフレット申し込は・・・

1 ~ ~ 5 1部 = 35円
 6 ~ ~ 100 1部 = 25円
 101 ~ ~ 500 1部 = 20円
 500 ~ ~ 以上 1部 = 15円

組み合わせは自由です

愛に満ちた顔

手に入れるためならどんなことでも約束できるほど心から欲しいと思ったものはありますか？私にはありません。

子どもが欲しかったのです。でも何度も流産を繰り返して、医者には子どもを産むことはもうできないと知らされました。実際医者は私にあと六ヶ月待ってみて、さらに流産するようにならそれから検査を続けようと言いました。

六ヶ月後というのは十月でした。私は毎日お祈りを欠かしませんでした。子どもが欲しいと祈り続け、もし子どもに恵まれたら私は他の子ども達の助けをしようと神に誓ったのです。十一月の初めに私は妊娠を確信しました。息子は七月三十一日に誕生しました。それは六ヶ月経とうとという最後の日でした。

息子は誕生後、父親や私のことを敵かな青い腫れでじつと見つめ、私達がふざわしい親かどうかを見極めているように見えませんでした。私は喜びで心臓が張り裂けそうでした。息子が赤ん坊の間の毎分毎秒を喜び一杯で過ごし、そのため自分がした約束の

ことなど完全に忘れてしまったのでした。

ところが主はそれをちゃんと覚えていて、私の目の前にいつも必ず中絶問題をつきつけているように感じたものでした。私は中絶のように論争を巻き起こすような不快な問題には巻き込まれたくありませんでした。で、いつも無視して過ごしてきました。様々な中絶を描写しているある記事を読むまでは、です。そこには子宮切開された赤ん坊の写真が載っていました。とてもかわいらしい赤ちゃんだったのですが、バケツのような入れ物に入れられて、明らかに死んでいたのです。私は赤ちゃんの愛しい顔から目を背けることができませんでした。母親のキスを知らないまま死んでしまつた顔なのです。

私が生命保護運動に積極的にかわかり出したのはその日からでした。

私が有名になってからすでに十年以上が経ちました。一九九〇年と一九九四年にはペンシルバニア州の知事に立候補したこともあります。仕事上、私は多くの「例外」扱いされる質問に

戸惑うことなく、また妥協することなく答えてきました。つまり、「母親の命」が法の範囲で語られるものではないことを自信をもって語ってきました。医者はずっと昔から妊娠中の医学的問題を治療する能力を持っていたのですから。中絶が世界的に禁止されていた時代さえ、医者は子宮外妊娠や子宮ガンと闘ってきたのです。そのような場合、ほとんどの医者は患者を二人一緒に診るようにし、双方の要求に応えるようにしてきました。残念なことに医者に全ての命を助けてもらうことは不可能であり、患者の一人は自然死する場合もあります。でも誰も孤独に見舞われることは決してなかつたのです。

その間、私は更に四人の子どもを出産しました。すべて帝王切開によるものでした。新しい顔が飛び出す度に私は喜びで胸が一杯になりました。五人目の子どもを出産すると、医者は私に複数の帝王切開により子宮がひどく痛んでおり、これ以上の妊娠には耐えられないだろうと言いました。私の命を守るためにはこれ以上妊娠してはいけな

いと云つたのでした。医者の言葉を聞いて悲しくなりましたが、同時に本来なら一人も産めなかつたはずの私が五人の子どもに恵まれたことに感謝の気持ちで一杯になりました。医者には警告を守ると言いながらも、今までの神の偉大さを思う気持ちから、私達夫婦はそれから自然の家族計画をすることにしたのでした。

それから二年後に、再び神はその偉大さを発揮し、私は自分がまた妊娠していることに気がつきました。医者に行くともう今回の妊娠がいかに危険を伴うものかを聞かされました。最悪の場合、母子ともに生きられないかもしれないと言われたのです。全ては私の子宮の壁に赤ん坊を支えるだけの力があるかどうかにかかっていたのです。

夫と私は他の子ども達にこの事態をどう説明するべきか、あるいは説明しない方がいいのかどうか、とても迷いました。更に最悪の事態が起きた場合、夫がどう子ども達に話をしたらいいのかわかりませんでした。私は神は神経過敏になり、多少の恐怖も感じましたが、それよりも子どもがもう一人生まれるというこのの方が大きく感じられ、数ヶ月後にまた新しい顔に見える喜びを期待することにしたのでした。

私にとってそれは「鏡の体験」でした。つまり自分が口に出して信じていることを乗り切らなければならぬ状況に直面することです。この鏡には予期

せぬ姿が映し出されることがありました。私が見ていたのは赤ん坊の顔ではなく、母親の顔だったのでした。

父親は命を送り込み、それを出産に向けて育てるために神に協力するのが母親です。母親は神の無条件の愛を映し出す顔であり、その愛とは自己よりもまず他人を思いやる気持ちのことです。どんなことが起きようと、私の子ども達は母親から無条件に愛してもらっていることを感じとっているはずだし、それは私が子ども達に捧げることのできた最大の贈り物だったのでした。

中絶はただ単に子どもの命を奪うものではなく、それは同時に母親の本質をも破壊してしまっています。子どもはまず自分の親を通して神と出会います。そして神の姿は子どものお父さんお母さんを通して形づけられていくのです。もし自分は母親に無条件に愛されていると感じられない子がいれば、その子にとって神の愛情を信じるなどとはとうてい無理なことなのです。自



日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

「中絶に反対する運動」

〒780-0062 高知市新本町一丁目7-31

電話/Fax 0888-73-3619 e-mail: nvt56n@ps.inforyoma.or.jp

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円
一万円 五千元 一千元

無料: 毎月プロ・ライフ・ニューズレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さい命を大切に育みましょう。

事務所時間:

月一金 12:00 - 18:00
日のみ 14:00 - 18:00
土曜日 休み

御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店
口座番号: 0573553
日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」
現在口座番号: 01660-5-39607
日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り

顔に受ける心地よい風、さわやかな五月晴れの空にはこいのぼり。そして、母の日もある、この良い季節を如何お過ごしでしょうか。鈴鹿市在住の88歳、現役最高齢の助産婦さん・安保ゆきのさんが三千人の赤ちゃんを取り上げて、「いまだにどの赤ちゃんも不思議でしょうがありません。赤ちゃんを受け取るのは、ご神体を受け取るのと同じ。神様に他人の私が、初めて手を触れる。身も心も清めないといけません。」とおっしゃっておられる。

父親になる男性は、赤ちゃんをたいじして向かうので物事を客観的に眺められるのとは対照的に、母親である女性は、赤ちゃんと同じ側に寄り添い、赤ちゃんが今、何を望んでいるのか、何を考えているのを感じようとする。だから、赤ちゃんが言葉を話せなくても、赤ちゃんの気持ちを察することが出来るようになる。これは母親に与えて下さった特技だと思つ。そして、女性が母親になった時、安保さんがおっしゃったように、わが子を本当に不思議な気持ちで胸に抱き、拝みたい気持ちにまでなる体験をすることがあります。この察するという能力を更に磨いて、プロ・ライフの運動で生かせれば、おなかの赤ちゃんの生きたいという気持ちにも、中絶して悩み苦しんでいる女性の気持ちにも、光をあてる事が出来るようになるのではないかしらと考える今日この頃です。

四月のニュースとともに、事務所から皆様に『ピル』の小冊子をお贈り致しましたが、お読み下さった御感想は如何でしょうか。周りの方々にPRして下さった時、相手の方からどのような反応があったでしょうか。事務所のほうにお教えいただければ、幸いです。

日本プロ・ライフ・ムーブメント

分を愛してくれていない神と関係を持たないなどと思つことがあるわけがないでしょう。

中絶の本当の問題は生命の損失ではなく、愛情を失つことにあります。中絶は子どもを殺すだけではありません。私達と神との間を分裂させるものなのです。中絶は、女性からすばらしい贈り物の価値を最大限に発揮する機会を奪い、子ども達からは神に愛されているという実感を奪つてしまします。

私は二千年前に生きていたある女性のこと、そしてその女性が捧げた贈り物のことを考えました。女性にはお金があつたわけでもなく、権力も知名度もありませんでした。彼女は子どもを身ごもるために神に協力しました。彼女は生まれてきた子どもを、神の無条件の愛情を感じながら育てました。その愛があつたからこそ、彼女は十字架にかけられた神と一緒に苦しみ味わうことができたのです。

そこで彼女は女性の本質が命を分かち合い、愛情を分かち合う能力だということに気がついたのです。女性は家庭の心臓なのです。女性を通して、子ども達は神の心に触れることができ、そこで初めて自分が神に愛されていることを知るのでした。このように神の愛情を子どもに伝える独特な方法は、女性だけに与えられた才能なのです。それは中絶によって破壊されてしまつた才能なのです。

今回の妊娠で、私はこの才能を更に発揮するように求められています。こ

れは「母親の命」の妊娠ではなく、母親の愛情」の妊娠なのです。そしてどんなことが起きようとも、私の家族は祝福されているのだと確信することができたのです。

六番目の子どもは、お兄ちゃんの三才の誕生日を迎えた翌朝元気に生まれました。ポール・ジョセフは、産まれると威勢のいい産声をあげてその誕生を知らせました。息子は、新生児にかぶせる帽子に描かれている小さないたずら好きな妖精のような顔をしていました。その愛らしい顔に初めて手を触れた時、私は自分が特別な贈り物をもたらしたのだと感じました。贈り物とは自分達が生き延びていることではありません。私達の生活にある神の存在のことなのです。この子は、神が私のために与えてくれたのです。この子は、私が女性であることに心から感謝したいという気持ちにさせてくれたのです。そして家族一人一人がこの子の誕生によって、愛されることの意味を知つたのです。息子は無条件の愛を顔中に表現していました。

分娩直後の私を診に来てくれた主治医が、「五人目と六人目の出産を見守りましたが、本当に産めるとは思つてもみませんでした」と言いました。そして最後に締めくくつた言葉が、「神様は本当にあなたのことが好きなのです。」

私は何の疑いもなく本当にそうだと信じています。

ペグ・ルクシク